

公益財団法人かめのり財団

多文化共生ネットワーク会議 in 富山

開催報告

プログラム

日時		内容
1/24 （金）	18：00～20：00	オープニング ～共創の未来とやまとの合同交流会
1/25 （土）	8：00～12：50	フィールドワーク ・富山ムスリムセンター高岡 ・アレッセ高岡 ・太閤山こどもサポートセンター
	13：00～15：00	かめのり財団 2025 年度事業助成オンライン説明会 ～「地域から考える多文化共生の推進と NPO の役割」～ 進行：田村太郎（ダイバーシティ研究所代表理事） 1. かめのり財団による多文化共生ネットワーク事業の概要説明 2. 2024 年度助成先による活動報告 髙橋早咲恵（北上市国際交流協会） 松元永己（特定非営利活動法人あいち　かすがいっこ） 岸田尚子（にほんご豊岡あいうえお） 3. これからの取り組みに向けたディスカッション 活動報告 3 団体 宮田妙子（NGO ダイバーシティとやま理事/富山国際学院理事長/23 年度助成先） 五十嵐ゆかり（聖路加国際大学大学院教授/コメンテーター） 4. かめのり財団 25 年度分助成プログラムの説明 5. 質疑応答
	15：30～18：00	「能登半島地震から見えた多文化共生の課題」 進行：田村太郎（ダイバーシティ研究所代表理事） 1. 開会挨拶・趣旨説明 2. 能登半島地震での外国人の被災状況について 山田和夫（NPO 法人 YOU-I　グループ代表） 3. 外国人住民による取り組みについて 横地レジーナ（フィリピン出身・輪島在住） サリム・マゼン（富山ムスリムセンター） 4. 9 月水害を受けた今後の被災者支援について 山路健造（多文化人材活躍支援センター） 5. グループ討議 6. 全体発表・まとめ 7. 閉会・情報提供等
1/26 （日）	8：00～16：00	オプションツアー 能登半島地震被災地（輪島市）への訪問と仮設住宅での支援活動

開催報告（1）オープニング：かめのり多文化共生 共創の未来とやま合同交流会

・開催日時：2025 年 1 月 24 日（金）18：00～20：00
・場所：オークスカナルパークホテル富山 4 階　翠鳳
・参加者数：参加者 19 名、関係者 8 名、共創の未来とやま参加者 20 名
・内容・登壇者（法人格・敬称略）

主催者挨拶　かめのり財団　理事長　宮嶋泰子
国際協力機構（JICA）　理事　小林広幸
来賓挨拶　外務省　南部アジア部　南西アジア課長　室谷政克
富山県知事　新田八郎
活動報告
アレッセ高岡　青木由香　（第 18 回かめのり大賞草の根部門受賞報告）
JICA 北陸　所長　富田洋行　（共創の未来とやまの活動紹介）
NGO ダイバーシティとやま　代表理事　宮田妙子　（同上）
ダイバーシティ研究所　田村太郎（かめのり多文化共生事業の照会）

ネットワーク会議開催前夜に、同日、近隣会場でシンポジウムを開催していた「共創の未来とやま」と合同で懇親会を開催しました。懇親会には新田富山県知事も駆けつけてくださり、多文化共生に携わる人々の活動やネットワーク形成の重要性について激励のお言葉をいただきました。

富山県内で活動し、「第 18 回かめのり大賞草の根部門」を受賞した「アレッセ高岡」代表の青木さんに登壇いただき、同団体の活動をご報告いただきました。シンポジウムが開催された富山の地で実際に活躍する当事者からの報告は、参加者にとって大きな励みとなり、翌日からの会議に対する熱意も大いに高まりました。報告後にはかめのり財団宮嶋理事長からインタビュー形式で青木さんの想いをさらに深掘りし、会場の皆様にお届けしました。

懇親会終盤では、全てのシンポジウムが終了した「共創の未来とやま」と、翌日から始まる「かめのり多文化共生」それぞれのスピーカーから活動目的・実績をお話いただき、各参加者が今後実現を目指す取り組みを再認識できるきっかけとなりました。
様々なバックグラウンドや所属の参加者の新たな繋がりを創り、深める貴重な時間となりました。

＜参考＞　共創の未来とやま
https://www.jica.go.jp/domestic/hokuriku/information/topics/2024/1546920_52716.html




主催者あいさつ　かめのり財団　宮嶋理事長（左）、JICA 小林理事（右）




来賓あいさつ　外務省 南部アジア部 南西アジア課 室谷課長（左）、富山県新田知事（右）





アレッセ高岡活動報告（左）および共創の未来とやま活動報告（右）の様子





かめのり多文化共生事業報告（左）および集合写真（右）

開催報告（2）フィールドワーク：富山における多文化共生活動の現場視察

・開催日時：1 月 25 日（土）8：00～12：50
・場所：富山ムスリムセンター高岡、アレッセ高岡、太閤山こどもサポートセンター
・参加者数：参加者 19 名、関係者 6 名

2 日目は富山市内からバスで国道 8 号線を西へ、中古車のストックヤードやモスク、ハラルフードを扱うコンビニなどを左右の車窓に眺めつつ、高岡市に向かいました。最初に訪問したのは「富山ムスリムセンター」が新しく整備中の礼拝施設です。午後のセミナー登壇者でもある同センターのマゼンさんによると、壁紙や照明などは現地から取り入れたもので、ふるさとを離れてもこうした場所があることは代えがたい安心感につながるとのことでした。施設見学ののち車座となって、富山県内にムスリムの方々が多く滞在される理由や、同センターの取り組みについてお話しを伺いました。

続いて高岡旧市街地の目抜き通りを歩いて「アレッセ高岡」の事務所と、外国ルーツの子どもたちの学習支援活動の現場を訪問しました。学習支援活動は中高生約 20 人を対象に、毎週火曜日と土曜日に開催されています。日本語や教科学習に留まらず、「市民性教育」の視点を取り入れたイベントの開催や、地域社会との接点をつくるワークショップにも取り組んでいます。参加者は事務所で代表の青木さんとの意見交換と、学習支援教室の視察との 2 グループに分かれて現場の様子をしっかり見学させていただきました。多様な年代のボランティアが学習世支援活動を支えている教室には、やさしい空気が漂っていました。

最後に参加者は高岡から富山方面へ 15 分ほど戻った射水市にある「太閤山コミュニティセンター」を訪問しました。同センターでは外国ルーツの子どもたちが気軽に集える場所として「子どもサポートセンター」を運営し、学習支援や遊びを通じた日本語学習などの活動を実施しています。運営は地元の「太閤山地域振興会」が主体となっており、会長の森田さんから地区の様子や住民同士のコミュニケーションの経緯についてお話しを伺いました。サポートセンターでは子ども食堂も実施しており、この日用意された「富山国際社会団体」のみなさんが調理したハラルカレーを美味しくいただきました。また一部の参加者は、23 年度にかめのり財団の助成を受けた「NGO ダイバーシティとやま」の宮田代表とともに、ムスリム女性との意見交換を行いました。宗教上の理由で女性は女医の診察しか受けられないなど、言葉だけでなく宗教的なバックグラウンドへの配慮の必要性を実感しました。

たいへん短い時間ではありましたが、参加者からも積極的な質問や情報提供、意見交換が行われ、全国からの参加者にとっても、また受け入れてくださった訪問先の方々によっても参考になることが濃縮されたフィールドワークとなりました。

＜参考＞

- アレッセ高岡・対面学習支援活動　https://www.alece.org/studysupport
  ダイバーシティとやま　https://diversity-toyama.org





富山ムスリムセンター高岡１階の概観（左)、館内での意見交換の様子（右）




アレッセ高岡での意見交換の様子（左)、館内での意見交換の様子（右）




太閤山地域振興会の森田さんによる活動紹介（左)、サポートセンターの様子（左）

開催報告（3）多文化共生ネットワーク会議：2025 年度事業助成オンライン説明会

・開催日時：1 月 25 日（土）13：00～15：00
・場所：富山県民会館 509 号室
・参加者数：会場参加者：19 名、オンライン参加者 35 名
・内容及び登壇者

進行：田村太郎（ダイバーシティ研究所代表理事）
(1) 多文化共生ネットワーク事業概要説明：阿度元子（かめのり財団）
(2) 2024 年度助成先 3 団体による活動報告
松元永己 （あいちかすがいっこ）
髙橋早咲恵（北上市国際交流協会）
岸田尚子（にほんご豊岡あいうえお）
(3) これからの取り組みに向けたディスカッション
活動報告者 3 名
コメンテーター：宮田妙子 （ダイバーシティとやま/2023 年度助成先）
五十嵐ゆかり （聖路加国際大学教授）
(4) 2025 年度分助成プログラム説明：阿度元子（かめのり財団）

かめのり財団の助成プログラムは、以前までは「かめのり塾」及び「多文化共生担い手ネットワーク会議」への参加が申請の必須条件となっていましたが、2025 年度分からは不要となりました。事業助成の趣旨・募集要項の条件を満たす場合はどなたでも申請可能となります。助成説明会では、かめのり財団から「多文化共生ネットワーク事業」の概要と、財団が当該事業に取り組む意義や目的を参加者に直接伝えしました。

続いて、助成プログラムを活用して地域で活動する 2024 年度の助成先 3 団体から代表者が登壇し、取り組みの状況を報告しました。実際に助成金を活用している先輩による具体的な活動報告は、申請を検討している方にとって貴重なアドバイスとなりました。

報告後にはコメンテーターの 2 人も加わり、ディスカッションを行いました。助成団体の先輩、助成審査者としてのご経験も持ち、それぞれの領域で活躍する 2 人から取り組みへの講評や助成申請を検討する方へのアドバイスがありました。最後に、2025 年度分からの変更点も踏まえた助成プログラムの説明を行いました。参加者からの質問も受け付け、申請に関する疑問を解消しました。

＜参考＞
・かめのり財団　助成プログラム　https://www.kamenori.jp/grant2024/
・NPO 法人あいちかすがいっこ　https://kasugaikosodate.org/
・北上市国際交流協会　https://k-iah.com/kiah/
・NPO 法人にほんご豊岡あいうえお　https://www.eonet.ne.jp/~aiueo-nihongo/index.html





かめのり財団による事業概要説明（左）、あいちかすがいっこによる活動報告（右）





北上市国際交流協会による活動報告（左）、にほんご豊岡あいうえおによる活動報告（右）





報告者とコメンテーターによるパネルディスカッション（左）、質疑応答の様子（右）

開催報告（4）公開セミナー：能登半島地震から見えた多文化共生の課題

・開催日時：1 月 25 日（土）15：30～18：00

・場所：富山県民会館 509 号室

・参加者数：19 名、オンライン参加者 46 名

・内容及び登壇者

司会・進行：田村太郎（ダイバーシティ研究所代表理事）

(1) 能登半島地震での外国人の被災状況について

山田和夫（NPO 法人 YOU-I 代表）

(2) 外国人住民による取り組みについて

横地レジーナ（輪島市在住）、サリム・マゼン（富山ムスリムセンター代表）

(3) 9 月水害を受けた今後の被災者支援について

山路健造（多文化人材活動支援センター）

(4) 参加者によるグループ討議、発表及び講評

2024 年の能登半島地震から 1 年が経過するなか、これまでの被災者支援や復興の取り組みから浮かび上がる外国人住民との共生に向けた課題について、支援関係者や外国人当事者の視点から報告をいただき、これからの多文化共生の取り組みに求められる課題や可能性について参加者間で議論を行いました。

YOU-I 代表の山田さんからは、能登半島地震での被災外国人支援活動のみならず、ウクライナ避難民支援や外国人材の受入れの取り組みから、課題のステージの変化に沿った支援のあり方や、行政機関との連携や難しさについてお話いただきました。横地さんからは、自宅が被災した当時の状況やこれまで受けてきた支援、新しく取り組みをはじめた外国人同士の居場所について報告がありました。またマゼンさんからは、地震発災直後から続けている支援の様子や避難所などで見た被災地の現状から、比較的若い外国人が地域で高齢者を助ける側に回ることの重要性について指摘がありました。最後に支援活動を機に輪島市へ移住した山路さんから、これまでの活動の経緯や 9 月の水害以降の被災地の状況と、外国人住民が少なく孤立しがちな地域に求められる取り組みについて、アンケート調査の結果も踏まえ紹介がありました。

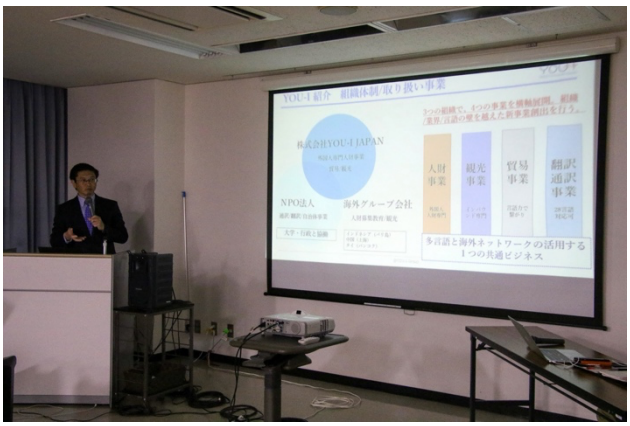
登壇者の報告を受け、会場・オンラインそれぞれの参加者同士でグループに分かれ、「今後の外国人支援と災害対応で重要なことは何か」をテーマに討議を行いました。発表では、「有事に備えるには日頃からのつながりが重要」「食事やスポーツを通じた文化交流から始める」「オンライン日本語講座を導入したり、多様な文化的背景や労働環境におかれる人々の心の拠り所となる居場所・関係づくりが重要だと感じた」といった意見が出ました。

＜参考＞

・NPO 法人 YOU-I　https://www.you-i.jp/

・富山ムスリムセンター（TMC）　https://www.facebook.com/alfaruqtmc/?locale=ja_JP

・一般社団法人多文化人材活躍支援センター（たぶさぽ）　https://tabusapo.org/





YOU-I 山田さんによる報告の様子（左）、横地レジーナさんによる発表の様子（右）




マゼンさんによる報告の様子（左）、山路さんによる報告の様子（右）




会場でのディスカッションの様子（左）、グループ討議の発表の様子（右）

開催報告（5）オプションツアー：能登半島被災地への訪問

・開催日時 1 月 26 日（日）8：00〜16：00

・訪問先：輪島市大野町第 1 仮設住宅団地（石川県輪島市立鵠巣小学校内）

・参加者数：参加者 12 名、関係者 7 名

富山から氷見を経由して復旧途上の「のと里山海道」を北上し、まだ至るところに災害の痕跡が残されてる道中を経て輪島市のなかほどにある鵠巣小学校に到着しました。学校の入口にある石碑もまだ倒壊したまま放置され、校庭は仮設住宅が面積いっぱいに立てられていました。

仮設住宅内の集会所にて炊き出しを実施し、参加者達は仮設住宅を全戸訪問による炊き出しとサロンへの参加の呼びかけや、炊き出しの補助を行いました。この仮設住宅団地にはカンボジアから来た技能実習生も暮らしていますが、この日に始めて集会所へ足を踏み入れたという日本人住民の男性と外国人住民の間に交流が生まれ、わずかなきっかけながら支援の一助を担うことができました。また、体が不自由な住民へ食事を届けたり、外国人住民と母語でコミュニケーションをとったりすることもできました。

日頃から外国人住民やその支援者と多く関わる参加者ですが、実際に被災地に足を踏み入れ、国籍・性別・年齢に関わらず全ての人々へ支援を行なった経験は非常に貴重なものとなりました。帰路、車内から被害の大きかった輪島市・穴水町内を視察し、公費解体が進まない現状や地震・水害の恐ろしさを改めて実感しました。参加者からは「被災された方々への声の掛け方や関わり方がとても勉強になった」「ネットワーク会議に参加しないと得難い貴重な体験と繋がりができてよかった」といった声が聞かれました。

今後の被災地支援に向け、参加者内で今後の事業連携の話が出るなど、今回のオプションツアーがつながりを深めることに寄与することができ、多文化共生とともに被災地支援にもかかわる担い手育成の重要性を改めて実感しました。








集会所で炊き出しの準備にあたる地元の方々（左）、参加者も炊き出しを手伝いました（右）




参加者と住民との歓談の様子



仮設住宅団地での集合写真

公益財団法人かめのり財団

多文化共生ネットワーク会議 in 富山　開催報告

発行：2025 年 1 月 31 日